

D-10 乳児ベッドについての歴史と現況

日本女大家政 加藤 翠・大沢弘江

我が国の生活文化が、歐米のそれと比較して特徴的なものであることについては、中をから着目されしばしば指摘されて来た。そして明治期に入り、また第二次大戦後になって、急速に欧米化の途をたどって来た。その中で他の生活文化に対して、睡眠の arrangement については、欧米化の速度が遅しかつたもののように思われる。安土桃山時代、すでに秀吉が寝台を持っていたことは知られてゐるが、これも大阪藩城と共に廃となり、徳川時代へ続いて普及をすることはなかつた。

乳児ベッド（ゆりかご式も含めて）については、我が国に欧米の育児技術が本格的に入紹介されたようになつたのは明治初期において、乳児をベットに寝かせることが紹介されてゐるもの、我が国で乳児ベッドが生産販売されるとどうなつたのは、明治後期ではないかと思われる。

乳児用ベッドは近年スマートの指定商品となつてゐるが、成人用ベッドが急速な普及の伸びを示していくといわれるのでに対し、最近の様々の普及率データを照らしてみて、大きな伸びをみせているとは思えない。更にこの利用は意外に短かいようである。

住民係の専門家は、乳幼児期から睡眠の場所と個の確保を主張していると思われるが、我が国における乳児ベッドのあり方には、どのような問題があるのかについて、集めてみた資料を中心に検討してみたい。